

上がった競技でした。

《玉入れ》 たって歩ける組と車椅子の組を分けて、それぞれ2回戦行いました。車椅子組では、逃げる的に沢山入れる事が出来ました。

《パン食い》 皆真剣な表情でパンに向かって一直線。口で銜えて取る方もいて拍手喝采でした。

《物送り》 鈴と団扇を使い、鈴を三回鳴らし（うちわは三回扇いで）次の方に渡します。

最後の人に先に届いた組の勝ちといった競技です。レクレーションでも行っているゲームな

のでスムーズに行えました。



災害時を想定した炊き出し訓練の実施！ 豊科病院

豊科病院では、地震等の災害時に、電気やガスなどのライフラインが途絶えたら・・・という事態を想定し、平成17年から毎年『炊き出し訓練』を行っています。

4回目となる今年は平成20年10月9日に、当院の全ての食事を担当している食事療養部の厨房が壊滅状態、という大災害を想定し訓練を行いました。実はこの食事療養部の厨房、当日は床の全面改装工事のために、丸一日使用出来ない状態になっていたのです。よって、機能としては正に壊滅状態だったと言えます。

訓練当日は、食事療養部の栄養士と調理師が中心となり、屋外にて薪で火をたき、巨大な鍋を2つ使って、入院患者全員分(約140人分)のご飯とカレーを作りました。もちろん断水した時のことも想定していますので、大量なお米も

ペットボトルの水を何本も使用し研ぎ、炊きます。このペットボトルの水ですが、実は当院に災害時用に保存してあるもので、使用期限が過ぎてしまうと無論使用出来ません。この訓練によって消費期限前に大量に使用出来、そして災害時の想定出来る、“ECO”と“訓練”の一石二鳥の取組みなのです。



出来上がったカレーとご飯は、仮設の食事療養部となった作業療法室に運び込まれ、ここでも、災害時用の容器を使用し盛り付けられました。

担当した調理師からは、“釜が無いので、カレーよりもご飯を炊く方が難しい。”との感想も。この感想を一つとっても、訓練の大切さを感じます。



いつも優しく

いつも優しく

講演会『支え合う在宅介護』開催！

安曇野メディア

目次:

- 「安曇野メディア」・・・1
- 「白馬グループ」・・・2
- 「城西病院」・・・3
- 「ミサトピア小倉病院」・・・4~5
- 「豊科病院」・・・5

平成20年11月8日、安曇野メディア主催の講演会『支えあう在宅介護』を、安曇野市豊科の踏入コミュニティセンターで開催しました。

3回目となる今回は「高齢者の食事について」一口から食べることの大切さをテーマに、特別医療法人恵仁会介護老人保健施設「安寿苑」の管理栄養士、植松繁雄先生を講師にお迎えし、利用者ご家族をはじめ近隣の介護保険事業所等より参加をいただきました。講演で植松先生は、口から食べることは、精神面に大きな効果を与えること



していただきました。参加者からは、「非常に参考になり、早速家に帰って作ってみたい」等の意見が聞かれました。

また、植松先生の野菜の切り方、包丁の使い方の紹介もあり、参加者は熱心にメモをとりながら講師の先生の話に耳を傾けていました。

今後とも、当施設は、在宅介護を支援する地域に密着した施設として、情報を発信してまいります。



を強調されました。

講演後第2部として調理実演をおこないました。高齢者の歯がなくても食べられるような、やわらかい食事のメニューのレシピを紹介しながら調理実演をし、実際に参加者に10品程試食を



特別医療法人 城西医療財団

〒390-8648
長野県松本市城西1-5-16
TEL 0263-33-6400
FAX 0263-33-9920

いつも優しく

ホームページ
<http://www.shironishi.or.jp>

行政・地域と合同での消防総合訓練の開催！ 白馬グループ

白馬メディアでは以前より、保守保安委員会を中心に「万一、大規模災害等が発生した場合 施設群としてどのような対応が必要なのか？」「地域との防災協定が必要なのでは？」と検討をしていました。

行政・地域（飯田区、飯森区）と協議を重ねた結果、平成20年3月10日付けで「災害時における相互協力応援態勢に関する協定書」を締結することが出来ました。この協定書は、白馬村・消防署・警察・消防団・飯田区、飯森区・特養の白嶺・白馬メディア等施設群が合意した成果です。

平成20年秋期火災予防運動の一環として、白嶺・白馬の両施設を会場に「**消防総合訓練**」が開催されました。



10月26日（日）前日の温かさとは大違いの、冬を感じさせる肌寒い日でした。午前9時から地元消防団の「送水管連結の中継訓練（消火栓からホースを連結・中継し火元まで繋いで送水する）」で始まりまして。

10時に地区の住民の方々を始めとする参加者 総勢約100名が集合しました。白嶺施設では①救急救命訓練②初期消火訓練③救護・救助訓練が行われ、白馬施設では消防署レスキュー隊による「はしご車を使用した救出・救助訓練」が行われました。



かたくりの郷の入所者を始め職員も訓練に積極的に参加しました。特に、はしご車による5階からの救出訓練には日直の医師を筆頭に5名の職員が救出される体験をしました。

（貴重な体験ができたのでは・・・チョット恐ろしかった？と思われますが）最後に、消防車からの放水で訓練は事故もなく無事終了しました。

災害や火災はいつ何時発生するか判りませんが、地域の相互応援態勢の協定が有効に稼働するよう今後も連携を密に行きたいと考えています。



財団職員旅行

城西病院

昨年10月に一泊二日の日程で愛知県西浦温泉への財団職員旅行を行いました。

旅行初日の見学場所は、徳川家に伝わる貴重な品々を展示した「三河武士のやかた家康館」。戦国時代の鎧や武器、絵巻など歴史にふれることが出来ました。また、庭園には大きなからくり時計があり動く姿に見入っている観光客が大勢いました。

次に、「筍」で有名な「真福寺」で昼食となり、珍しい竹膳料理を堪能しました。



さらに、徳川家由来のお寺で徳川十五代将軍のすべての位牌が祀られている「大樹寺」を見学した後、海に囲まれた「竹島」散策へ。海岸から続く大きな橋を渡って島に上陸するのですが、その景色の雄大さと自然の素晴らしさに目を奪われました。

宿泊先である「西浦温泉」では、自由時間に温泉で疲れを癒す人、部屋でくつろぐ人、目の前の海岸を散歩する人、海釣りを楽しむ人とそ

れぞれが思い思いに過ごし、夜は宴会で新鮮な海の幸に舌鼓を打ちながら美味しいお酒に酔いしれました。

旅行二日目は、海産物の朝市を見学した後、お酢のメーカー「ミツカン」の「博物館・酢の里」では、昔から健康食品として食されるようになった「お酢」についての製造法や効果等の解説を交えての見学となりました。

次に、「中部国際空港（セントレア）」を見学。空港内部はショッピングタウンで様々なお店が立ち並んでいましたが、外では飛行機の離発着を見ることが出来て、何か異空間に迷い込んだ感じがしました。

このように財団では、職員旅行を毎年企画しています。旅行を通じて訪れた観光地や宿泊施設など他業種の「サービス」についてしっかり会得することも有意義な経験となるでしょう。



恒例 秋のスポーツ大会開催！ ミサトピア小倉病院

秋恒例、ミサトピア小倉病院の『スポーツ大会』を10月18日に開催いたしました。入院生活が長期になる方が多く、平均年齢も年を追うごとに上がっています。日頃満足に体を動かす事の機会のない患者さん方には、楽しみの行事となっています。

競技種目は次の通りです。
《綱たぐり》真ん中でたるませた綱をどちらが

多く引っ張る（手繰る）事が出来るかを争う競技です。今年初めての競技でしたが、何度も病棟レクなどで練習したので、本番ではスムーズに綱を手繰れました。

最後まで勝敗が分かり難いので一番熱くなった競技でした。

《大玉送り》大きくコースアウトすることなく、しっかり玉を見て送りました。一番歓声の